

創造表現学部3年・河出雄浩さんが 広告学生賞の審査員特別賞を受賞

創造表現学部創造表現学科メディアプロデューズ専攻3年の河出雄浩さんは、映像制作やメディア表現などを意欲的に学んでいます。2年次から阿部卓也准教授のゼミに所属し、グラフィックデザインを新たに学修。全国の大學生が応募する「ACジャパン広告学生賞」にもチャレンジしました。「若者の自殺」をテーマに、日本社会への問題提起となるような新聞広告を考案。そのメッセージやビジュアルインパクトの強さが高評価につながり、審査員特別賞に輝きました。河出さんは「自分が本場に伝えたいことを形にしよう」という阿部先生のアドバイスのもと、試行錯誤を積み重ねました。今回の受賞に満足することなく、よりよい表現を探究し、自分の力を磨き続けたいと思います」と語り、さらなる向上を決意していました。



建築・インテリアデザイン専攻 2019優秀作品展

2月19日から6日間、創造表現学部創造表現学科建築・インテリアデザイン専攻が「優秀作品展」を開催しました。会場となった名古屋市民ギャラリー栄に展示されたのは、4年生の卒業プロジェクトの優秀作品「設計制作11点、論文6編」と、2・3年生の実習課題作品の優秀作品（設計制作9点）です。斬新なアイデアが光る作品が並び、大学関係者だけでなく一般の方々も多数来場しました。2月20日には建築家の久野紀光氏と末光弘和氏をお招きして講評会を行い、参加学生はポスターセッション形式のプレゼンテーションに力を注ぎました。また、久野氏と末光氏がミニレクチャーを開催し、有名建築の鑑賞ポイントを説明しました。学生にとって、建築やインテリアを多角的に学ぶ貴重な機会になりました。



メディアコミュニケーション専修 第6回卒業プロジェクト展

メディアプロデューズ学部メディアコミュニケーション専修・現・創造表現学部メディアプロデューズ専攻の4年生による「第6回卒業プロジェクト展」を、2月19日からの6日間にわたって名古屋市民ギャラリー矢田にて開催しました。「写真・オブジェ系」「コンピューター系」「映像系」の3分野・38点の作品が展示され、学生一人ひとりの豊かな発想力や表現力が光っていました。また、会場の企画、運営にも、学生が主体的に取り組みました。仲間と力を合わせ、学びの集大成として展覧会をつくり上げて、来場者の方々にメディア表現の新たな可能性を伝えていました。今回の経験を通し、学生たちは思考力や実践力、協調性などにさらに磨きをかけ、それぞれの道へと力強い一歩を踏み出したことでしょう。



Campus Topics

中学校・高等学校

キングスレイ校やオックスフォード大学などを訪れたイギリス研修旅行

3月21日から4月1日まで、中学3年生12人と高校生1・2年生15人の計27人がイギリス研修に参加しました。3か月にわたる事前学習会では、英会話の授業、英語による班別発表や質疑応答などに励み、万全の準備をしました。

イギリスでは、ホームステイをすると共に、キングスレイ校(3〜18歳が通う女子校)の生徒と交流しました。小学生の授業では折り紙、中学生の授業では演劇やアート、アフタヌーンティとマナーの講座に参加し、楽しい時間を過ごしました。また、オックスフォード大学での現地学生とのスピーチ発表、ロンドン市内研修、ミュージカル鑑賞、天文台の見学、クルーズなどで多様なイギリス文化に触れ、とても充実した12日間になりました。



高1論文発表会

2月14日、生徒が一年かけて取り組んだ論文の発表会が行われました。大アリーナにずらりと並べられたパネルに研究概要を記した10数枚のポスターを貼って10分間の発表開始です。政治・経済・日本文化や教育問題などテーマは多岐にわたりますが、LGBTやAIなど現代的テーマも。「なぜ〜なのか」「われわれは〜すべきか」。自分の内にある「問い」からはじまり、その答えを導いていきます。先輩や後輩を前に説得力をもって論証することができたでしょうか。今年で10年目を迎え、今や淑徳生の通過儀礼となった論文。「なぜ?」という問いに出会い、正解のない問題に取り組む中で、考える力・生きる力に身につけてくれることを願っています。



高2集中学習日 大学の授業を体験する

高校2年生は、3月14日・15日・18日の3日間、星が丘キャンパス1号館の教室を借り、大学の講義を受けました。その後各自で計画を立てて学習に取り組みました。講義は、1日目に心理学部の小川一美先生、2日目に人間情報学部の國分三輝先生、3日目に交流文化学部の小島祥美先生にお預かりしました。現在の志望学部と異なる講義内容の生徒もおりましたが、知識の詰め込みではなく、大学で展開されている「学び」を感じることができた生徒が多く見られました。受講後は引き続き大学構内で自習を行いました。大学キャンパスでノートや参考書を広げて学習を進めることで、大学に通う自分自身のイメージを持つことができ、大学受験への気持ちが高まったようです。



第73回 高等学校入学式

穏やかな淑徳晴れとなった4月8日、満開の桜に迎えられる、愛知淑徳高等学校入学式に277人の新入生が臨みました。校長は式辞で「深い学びによつて物事の成り立ちを考え、豊かな知と精神を持つ人として次世代を担う力をつけてほしい」と話されました。理事長からは「優しさと強さを兼ね備え、十年先、二十年先を見据えて生きてほしい」との励ましの言葉があり、新入生全員が真剣な眼差しで高校生活のスタートに向け気を引き締めていました。高校3年間は心身ともに大きく成長できる時期です。勉強、学校行事、部活に積極的に取り組み、体験を通してより一層成長することを期待しています。

思索と対話の春合宿

4月14日～16日にかけて、高1の宿泊行事である「思索と対話の春合宿」を蒲郡市三谷温泉明山荘にて実施しました。

はじめに、本校のカウンセラーでもある平野銘子先生に講演をしていただきました。ホテルに戻ってからは自己と向き合うために、用意された資料を読みながら、自分なりの「問い」を探し、黙々と

「思索」しました。さらに「対話」をするためにいくつかの課題に取り組みました。また卒業生12人から話を聞くことで、刺激を受け、将来について考えるヒントも得ました。3日間天候にも恵まれ、集団行動の大切さ、コミュニケーションの重要性を意識しつつ、級友とのレクリエーションの楽しさも感じながら、充実した時を過ごしていました。



平成30年度 中学校卒業式

3月19日の卒業式の日は曇り空でしたが、式後にはすっかり青空となり284人の卒業生を祝福しているかのようでした。

ほとんどの生徒が愛知淑徳高校に進学しますが、中学卒業は6年間の節目、義務教育を終えることになりました。「社会に出て働く人もいる中で、みなさんは自分で勉強する道を選んだわけです」

から、これからもしっかりと学んでいってほしい」と校長先生の励ましの言葉がありました。

卒業生は式の最後に「信じる」をこれからの決意をこめて力強く歌いあげ、式に参加している保護者や教職員、在校生の感動を誘っていました。校舎は同じでも、卒業生は在校生にバトンタッチをしたということで、新たな生活をスタートさせます。

